

津波と復興の記憶が生きるまち

広川町は和歌山県の中心に位置し、中央には広川が流れ、南は白馬山脈が東西に走る自然豊かなまちです。

安政元年（1854年）の南海地震の際、濱口梧陵が稲むらに火をつけ、津波から逃げる村人を誘導した逸話「稲むらの火」をはじめ、当時の記憶を伝える建造物や祭りは、日本遺産「百世の安堵」として文化庁に認定されています。

和歌山県PRキャラクター  
きいちゃんの  
わかやまさんぽ



今回は広川町の魅力を「きいちゃん」が紹介！



長さ約600mに及ぶ堤防は地元のシンボルになっているワン

**広村堤防**  
安政の津波の後、濱口梧陵が後世の津波から町を守るために築いた堤防で、国の史跡に指定されています。稲むらの火の館で申し込めば、耐久社や濱口梧陵銅像とあわせて、ガイドによる案内付きで見学することができます。



**稲むらの火の館**  
濱口梧陵の偉業と精神、教訓を伝える「濱口梧陵記念館」と、来るべき地震・津波に備え「稲むらの火」や実践的な地震・津波防災を学ぶ「津波防災教育センター」からなる施設です。



**西広海岸**  
遠浅の広大なビーチで、紀伊水道に沈む夕陽は、和歌山県朝日夕陽100選に選ばれています。

**ひる 廣八幡宮**  
「稲むらの火」で村人が避難した高台にある神社。室町時代に造営された本殿をはじめとする6棟の国指定重要文化財を有しています。



きいちゃん  
おすすめ

**稲むら最中** 広川町の新名物にと箕島高校の生徒が考案しました。「稲むらの火」がパッケージにあしらわれ、中身の餡は稲むらの塩とみかんの2種類の味が楽しめます。



**道あかり**  
町内の新鮮な野菜・果物、ジャムやジュースなどの加工特産品を販売。地元産のしらすなどを使用した料理も提供しています。



お問い合わせは  
広川町地域振興課  
☎0737-23-7764

くわしくは  
WEBサイト→



せかい つなみ ひ はまぐち ごりょう  
世界津波の日と濱口梧陵



平成27年12月、国連総会において、毎年11月5日は「世界津波の日」と制定されました。この日が「世界津波の日」とされたのは、安政元年（1854年）11月5日、安政南海地震による津波が今の広川町を襲った際、濱口梧陵が稲むらに火をつけ、津波から逃げ遅れた村人を高台へ導いて、多くの命を救った「稲むらの火」の逸話に由来しています。

安政の津波の後、梧陵は、私財を投じて被災者を救護するとともに、後世の津波から町を守るため、堅固な防波堤である広村堤防を築造するなど復興に尽力しました。

梧陵は、明治12年（1879年）5月に和歌山県議会初代議長として選任され、明治14年（1881年）10月に議員を辞職するまで議長を務めました。また、私塾（現在の耐久中学校・耐久高等学校）を開設し、青少年の教育に力を注ぐなど、数々の功績を残しました。

和歌山県議会（県庁北別館）前にある濱口梧陵の銅像



大阪・関西万博公式キャラクター  
ミヤクミヤク ©Expo 2025

2025年大阪・関西万博 500日前イベント

万博をきっかけに一步踏み出しチャレンジを！

参加  
無料

大阪・関西万博は、課題解決に向け、皆さんで創り上げる“参加型万博”です。万博開催まで目前に迫ったタイミングに、万博へのワクワク感や一步踏み出す気持ちが高まるよう、万博テーマ事業プロデューサーの講演や子供たちによるステージパフォーマンスを行います。ぜひ、皆様ご参加ください！

**日時** 令和5年11月23日（木・祝）

13:00～15:10 開場 12:30

**場所** 海南市民交流センター ふれあいホール

海南市下津町下津500-1 ※オンライン同時開催

**定員** 500人（先着順、オンラインは定員なし）

**申込** 11月13日までにお申込みください。

申込みはこちら▶



**問合せ** 2025年国際博覧会和歌山推進協議会事務局 ☎073-422-1111

万博推進課 ☎073-441-2703 FAX073-432-4410

内容（予定）

- 和歌山児童合唱団による合唱
- 基調講演  
大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー 中島さち子 氏
- りら創造芸術高等学校によるパフォーマンス など

広告

広告